東北大学機械系
同窓会ニュース
第7号

東北大学機械系同窓会
〒980-8579
仙台市青葉区荒巻字青葉01
東北大学工学部機械知能工学科内
電　話：(022) 217－6926
ＦＡＸ：(022) 217－6926
E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ http://www.dousou.mech.tohoku.ac.jp/
郵便振込口座
番号　02270－8－11176
名称　東北大学機械系同窓会
印刷　東北大学生活協同組合

会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が納入される会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。
◎　年会費　2,000円

ジャガイモとソーセージ

元ヤマハ発動機株式会社
小松民朗（精密工学科35）

アムステルダムは、欧州統括現地法人があった関係で、あの地域では、もっとも頻繁に立ち寄ったところである。にもかかわらず、彼の地では、コンセルトヘボウも聴いてなければ、レンブラントも見ていないし、おまけに純オランダ料理も食っていない。好奇心のワリと強い私としては、まことに奇妙なことになっている。

コンセルトヘボウやレンブラントは、出し物とか、時間の都合もあり、止むを得ぬとしても、日に三度、合計何十回も、いや、もっとあった筈の食事に何故、純オランダがないのだ。あるマネージャー氏に苦情めいた質問をした。〝オランダ料理なんて、ジャガイモとソーセージだけだよ。そんなものを大事な客人に提供出来るワケないね〟。因みに彼はスペイン人、彼の奥さんはオランダ人。何やら恨みのこもった一言だった。

両隣のイギリスとドイツで、うまいものに出会ったことがないだけに、彼の言葉には、説得力があった。だが、いまになって、それでも一度は試すべきだったと後悔している。

数年前、わが国としては、近年稀に見る米の不作に見舞われた。価格維持のため減反政策にしがみついて来た当国政府としては、大あわてで、米の緊急輸入に走った。アメリカ、オーストラリア、中国、タイと手当たり次第という感じだった。あの年の春頃、確かタイ農民は一トン当り百米ドルを少々上回る程度という安値米価にあえいでいた筈だ。それが一時四百ドルを超す高値をつけた。日本の思いがけない大量輸入のためと承知している。

一部に日本のおかげで相場が立ちなおり、タイは日本に感謝している、という見方もあった。そうだろうか。私は一時的に大もうけをしたわずかの人々が喜んだだけで、大方の市民は大いに迷惑している、反日運動につながらねばいいが、などと余計なことを気に病んでいた。幸い、そのうちにどうやら騒ぎも収まった。

諸々の悲喜劇めいた話の末に輸入されたタイ米は、気の毒なことにトンと不評だった。スーパーなどでは超安値でタタき売られていたし、捨てられたものも多いと聞いた。

友人仲間でも評判は悪かった。私が若い頃駐在していた国からわが国の苦境を救わんとやって来た米だ。これではあんまり、と体験の一端を披露した。

皆さん、食い方を知らないだけだ。米の品質が悪いわけではない。例えばカレー、チャーハン、オカユにして見なさい。日本の米など問題にならぬほどおいしい筈だ。それでも不味くてダメという人は、捨ててはいけない。私メに頂戴。無制限に受入れる。

実験の結果は大成功、タイ米の価値を認識した旨の報告が相次いだ。大失敗だったのはかくいう私の無制限無料買入れ計画だった。一粒も集まらなかった。

近年、国際化だのグローバル何とかなどの議論がくり返されているが、結構長いこと海外相手の仕事に携わって来た身としては、ストンと腑に落ちる話には、あまりお目にかからない。

何やら表面をなで回して右往左往しているように見えて仕方がない。精神の安定でも求めているのか、当面の事柄だけで水スマシのようにクルクル回っているうちに、大きい流れからは全く離れているもの、何かの危険を回避しようとしているトカゲのように、アッチへぶつかりそうになり方向転換、こっちでまた同様、しまいにどこかへ引っかかってシッポを置いて逃げて来るもの。

世の中をしっかり見つめ、自分には何が求められ、何が求められないことかを踏まえ、自分がすべきこと、すべきでないこと、出来ること出来ないことを心得て判断すれば、そう難しいことでもないと思う。もっともバカでも間違いなしとは言わない。事に当るバカの数の自乗くらいの割合で話は複雑になってしまう。国の内外を問わぬ話だ。

〝いろいろ国民性も違う所で、大変だったでしょう〟と労って戴くのは有り難い。おつきあいする方々個々人の性格、もっと大きくは地域的な気質等、中々動かし難いものはあり、これを無視してはいくらビジネスとは言っても、とんでもない失敗もしよう。

しかし、もう一歩突っこんだ、心のおつきあいみたいなものになると、いろいろな国の人々との出会いの末、つくづく思うのは、人間というのは変わらないものだなあ、ということである。

食通で有名な京都の偉い坊様が、一番うまいものは、と聞かれて、豆腐のオカラだと答え、一番不味いものはと聞かれて、それも豆腐のオカラだと答えたそうだ。ナルホド、よく解る話だ。

甚だ単純なオカラ料理でさえ、心の込め方一つで、これくらいの違いは簡単に出そうである。

オランダ料理もジャガイモとソーセージだからと極めつけず、今度こそと思う。そして、ついでのことにコンセルトヘボウとレンブラントも忘れずに。

懐かしき恩師の写真

▲沼知福三郎教授

▲樋口盛一教授

（上記写真２枚は、岩下惣吉氏（機械工学科28年旧卒）にご提供頂きました）

※本文に関係ありません

英国におけるISO9000との出会い

株式会社テクノファ代表取締役
平林良人（機械工学科43）

私がISO9000と出会ったのは一九八八年のことである。当時私はセイコーエプソン英国工場の工場長をしていた。そんなある日、英国人の部下からISO9000の存在を教えられたのである。英国工場は英国ミッドランド（中部）地方テルフォード市にある。私が赴任していた頃は、パーソナルコンピューター用のプリンターを製造している七百人規模の工場であった。

当時はまだサッチャー政権下の頃で、英国は英国病から抜け出すために、新しい産業を起こすことに躍起となっていた。我々は会社方針のもと、一九八五年から欧州域内生産のための候補地調査を進めていたが、一九八七年にテルフォード市の誘致政策に乗り、英国でのプリンター生産を開始した。

その頃欧州は未だ域内統一の途上にあり、EC（欧州）委員会は欧州域内経済のあり方について各種の試行をしていた。その中の一つにアンチダンピング政策があった。欧州域外からの輸入品に高い税金を掛けて域内企業を保護しようとするものである。プリンターもその対象になったため、セイコーエプソンも英国に海外生産拠点を設立したという経緯である。当時は現地生産認定（カントリーオリジン）を取ることが絶対的な使命であった。最初は組立をしているだけでよかったが、ノックダウン方式が急増したため、現地付加価値率の向上が条件に加えられた。現地付加価値率は最低四十％と決められ、如何にしてこの四十％の現地付加価値率を達成させるのかが、我々の大きな課題になった。

現地付加価値率を向上させるには、現地部品を購入しなければならない。プリンターは大きく分けて、金属部品（プレス部品、挽物部品）、プラスチック部品、電子部品、コード・ハーネス部品等から構成されていた。当時の欧州で、我々のプリンターに搭載できる高品質の部品を見つけることは結構困難なことであった。

最初はネジの類から購入を始め、電源ケーブル、銘板、汎用電子パーツへと分野を徐々に広げていった。しかし、分野を広げる度に思わぬ品質問題に遭遇した。私も品質問題解決のため、何回欧州中を飛び回ったかわからない。一番の問題は、物造りの考え方に甘さがあることだった。日本企業であれば当然のことだったが、工程で品質を作り込むという概念がなく、最終検査で品質の保証をしているところが多かった。

我々は、英国人を日本本社工

懐かしき恩師の写真

▲成瀬政男教授

▲棚沢　泰教授

（上記写真２枚は、矢野　洋氏（精密工学科33年卒）にご提供頂きました）

※本文に関係ありません

平成13年度通常総会予告

平成13年度通常総会は平成14年５月18日㈯仙台のマークスＧホテル仙台（旧宮城第一ホテル）にて開催されます。併せて、機械・知能系の研究室見学を計画しております。多数会員のご出席をお願い致します。

記

期　　日　　平成14年５月18日㈯

11：00－14：30　研究室見学
15：00－15：30　総会
15：30－16：45　特別講演
　　東北大学 総長　阿部 博之 氏
17：00－18：30　懇親会

総会・懇親会会場
　マークスＧホテル仙台（旧宮城第一ホテル）
　仙台市宮城野区榴ケ岡１－２－45
　Tel　022－296－2400

会　　費　10,000円（年会費2,000円を含む）

連 絡 先　東北大学機械系同窓会事務局　洞口明子
　Tel　022－217－6926

幹事より：多くの同窓会会員からのご要望により、東北大学 阿部総長にご講演頂くことになりました。皆様ぜひともご出席下さいますようお願い申し上げます。

会員の訃報

（敬称略）

ご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（平成12年10月同窓会ニュース第6号発送後事務局で入手したものを掲載しました。）

長谷川利郎（機8）平12・12・25
土屋　勉（機9）平12・11
浅見　与一（機10）平12・11・15
今村　清六（機12）平13・1・16
中野　豊昌（機16）平12・5・30
渡辺　寛和（機17）平12・9・25
堀川　定治（機17）昭57
加藤　龍男（航空18）平12・11
山田　敏（航空19）平13・2・17
杉尾　崇（航空20）平12・11・8
川上　清二（機21）平13・3・14
河合　仰治（機22）平12・2・19
鈴木　賢一（機22）平12・3・27
田中晴比古（機25）平9・2・13
稲葉　雅夫（機28新）平13・6・25
大内　恒男（機28新）平13・2
大野　喜久（機28新）平12・6・4
後藤　玉夫（工力28）平12・9・19
高橋　一郎（機29）平10・7・6
村田　忠雄（機29）平12・11・18
外川　和夫（精30）平12・9・12
長内　康紀（機32）平13・4・17
五十嵐勲平（精34）平12・5
山本　武司（精34）平12・12・8
新谷　徹（精35）平11・12
平林　康正（精36）平12・7・13
吉田　稲城（精37）平12・2・11
柴田　信武（機41）平11・6・24
菅原　善治（精52）平13・4・16
及川　裕一（機Ⅱ修60）平12・8・3
安部　正夫（機平2）平13・2・24

会員死亡の時、氏名・学科名・年次・死亡日・住所をご連絡下さい。会長名の弔電を差し上げます。

（連絡先）
東北大学機械系同窓会事務局　洞口明子
電話・ＦＡＸ〇二二－二一七－六九二六

平成十二年度通常総会報告

（敬称略）

平成十二年度通常総会は、平成十三年五月十二日（土）、マークスＧホテル仙台（旧宮城第一ホテル）にて開催された。出席者は、機械二十五名、機械Ⅱ六名、精密系四十五名、機械電子一名、機械知能一名、現職教官三名の計八十一名であった。

第Ⅰ部　総会の行事
（十五時～十五時三十分）

司会の山中将（精61）が開会を宣言して、最初に楠兼敬（機21）が会長挨拶を行い、引き続き楠会長が議長席について議事を進行した。

第一号議案
「平成十二年度事業報告」
「同右　出版事業の報告」
第二号議案
「平成十二年度決算報告」
「同右　監査結果報告」
を各担当役員がそれぞれ報告し承認された。

第三号議案
「役員の改選」
諸般の事情による一部役員の交代が提案され承認された。新任の役員はつぎの通りである。
幹事　川野聡恭（機Ⅱ62）

第四号議案
「平成十三年度事業計画提示」
「同右　予算案提示」
を各担当役員が行い、それぞれ承認された。当初予定されたもの以外には議題がなく議事は予定通りに終了した。

第Ⅱ部　機械系産学連携推進室の紹介
（十五時三十分～十五時四十五分）

庄司克雄（精39）より、産学協同研究の意義、機械系産学連携推進室の役割等に関する紹介があった。

特別講演
（十五時四十五分～十六時四十五分）

日本精工（株）研究開発センター所長　町田尚（精48）による「自動車用トロイダルＣＶＴの開発」と題した特別講演会が催された。興味深い話題が提供され、活発なディスカッションがなされた。

第Ⅲ部　懇親会
（十七時～十八時三十分）

川野聡恭（機Ⅱ62）が司会を担当して、石井敏夫副会長（機26）の開会の挨拶ならびに乾杯で開宴した。その後、酒井高男（航19）、永井伸樹（精29）、小林陵二（機30）によるテーブルスピーチが行われた。ひとしきりの歓談の後、大学職員を代表して加藤康司（機41）が機械系三専攻三学科の現状を説明し、立岩幹雄（機Ⅱ41）が近況を交えたスピーチを行った。宴もたけなわとなる中で、梅原誠（精37）を代表とする同期生十七名が壇上に立ち、東北大学学生歌「青葉もゆるこのみちのく」を全員で唱和し、在学生によるエールも行われ、大いに盛り上がった。同窓生との語らいが尽きない中、鈴木孝副会長（工27）による閉会の辞をもって、盛会裏に終了した。

平成12年度収支決算

自　平成12年４月１日
至　平成13年３月31日

収入の部

費　目	予算額	収　入
前年度繰越金	13,870,719	13,870,719
会費	7,000,000	6,654,000
広告収入	700,000	729,796
総会開催費	800,000	784,000
銀行等利息	8,000	9,491
合計	22,378,719	22,048,006

支出の部

費　目	予算額	支　出
事務経費	150,000	79,625
会誌発行費	800,000	0
ニュース発行費	400,000	404,407
封筒等印刷費	500,000	21,263
発送費	1,600,000	1,468,414
総会開催費	800,000	945,204
各種手数料	100,000	110,034
東京事務所活動支援金	300,000	300,000
卒業生祝賀会支援金	200,000	200,000
講演会開催費	100,000	0
人件費	1,800,000	1,204,369
予備費	1,000,000	538,719
次年度繰越金	14,628,719	16,775,971
合計	22,378,719	22,048,006

事務局より

◎ 同級会(同期会)ニュース
報告・記事の原稿を投稿して下さい。字数八百字－千字位、記念写真一葉といっしょに。封筒に原稿在中と明記のこと。

（送り先）
〒980-8579　仙台市青葉区荒巻字青葉01
東北大学工学部機械知能工学科内
事務局　洞　口　明　子
Tel/Fax 022-217-6926
E-mail　: dousou@mech.tohoku.ac.jp
ホームページ: http://www.dousou.mech.tohoku.ac.jp/

◎同窓会誌にご投稿を！
テーマ自由。約２千字。封筒に原稿在中と明記のこと。送り先上に同じ。
◎住所変更の場合、必ず新住所をお知らせ下さい。同時に旧住所の最寄り郵便局で新住所あて回送手続きをとって下さい。
◎海外に駐在される方は、駐在先の住所を連絡してください。帰国後は直ちに現住所をお知らせ下さい。
◎懐かしいお写真を事務局までお寄せください。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させて頂きます。

編集後記

ご執筆の皆様に厚くお礼申し上げます。今回はご投稿いただいた記事とともに、戦後間もない頃のたいへん懐かしい写真をいくつか掲載いたしました。写真をご提供いただいた関係各位にこの場を借りてお礼申し上げます。他にも懐かしい写真をお持ちの方はぜひとも事務局までご提供ください。同窓会誌へのご投稿もお待ちしております。